

令和2年度
年報

■ 目的及び事業 ■

●北海道立博物館条例（抄）

（設置）

第1条 北海道における教育、学術及び文化の振興を図るため、北海道立博物館（以下「博物館」という。）を設置する。

（名称及び位置）

第2条 博物館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名 称	位 置
北海道立北方民族博物館	網走市
北海道立文学館	札幌市
北海道立釧路芸術館	釧路市

（事業）

第3条 博物館は、次の事業を行う。

- (1) 資料を収集し、保管し、展示し、及び閲覧に供すること。
- (2) 展覧会、講演会等の催しを開催し、及び他のものが行うこれらの催しに協力すること。
- (3) 資料の利用に関し、必要な説明、助言等を行うこと。
- (4) 博物館（北海道立北方民族博物館（第6条において「北方民族博物館」という。）を除く。）の施設及び設備（以下「施設等」という。）を文学、美術等芸術に関する催しの利用に供すること。
- (5) 資料に関する専門的又は技術的な調査研究を行うこと。
- (6) 資料の保管、展示等に関する技術的な研究を行うこと。
- (7) 解説書、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
- (8) 他の博物館等と連携し、及び協力すること。
- (9) 地域の教育文化施設が行う北方文化、文学、美術等芸術に関する活動を援助すること。
- (10) その他設置の目的を達成するために必要な事業

（指定管理者による管理）

第4条 博物館の管理は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2第3項の規定による指定を受けた法人その他の団体（以下「指定管理者」という。）に行わせるものとする。

（指定管理者が行う業務の範囲）

第5条 指定管理者が行う業務は、次のとおりとする。

- (1) 第3条各号（第5号及び第6号を除く。）に掲げる事業に関すること。
- (2) 第8条第1項、第13条及び第16条第2項の承認に関すること。
- (3) 施設等の維持管理に関すること。
- (4) その他教育委員会が定める業務

（開館時間）

第6条 博物館の開館時間は、午前9時30分から午後5時まで（北方民族博物館にあつては、午前9時30分から午後4時30分まで）とする。ただし、指定管理者は、特に必要があると認めるときは、教育委員会の承認を得て、臨時に開館時間を変更することができる。

(休館日)

第7条 博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、指定管理者は、博物館の管理運営上必要があるときその他特に必要があると認めるときは、教育委員会の承認を得て、休館日に開館し、又は臨時に休館することができる。

- (1) 月曜日（当該日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、休日に該当しない当該日の直後の日）
- (2) 12月29日から翌年の1月3日まで

(利用料金)

第12条 利用者は、その利用に係る料金（以下「利用料金」という。）を指定管理者に納めなければならない。

- 2 大学等（大学その他規則で定める学校をいう。以下同じ。）は、その学生が博物館に展示する資料（常設展示に限る。）を観覧する場合の利用料金として、年間利用料金を指定管理者に納めることができる。
- 3 前2項の規定により指定管理者に納められた利用料金及び年間利用料金（以下この条において「利用料金等」という。）は、指定管理者の収入とする。
- 4 利用料金の額は別表第1に定める額の範囲内、年間利用料金の額は別表第2に定める額の範囲内において、それぞれ指定管理者が知事の承認を受けて定める。これらを変更しようとするときも、同様とする。

別表第1（第12条関係）

1 博物館に展示する資料を観覧する場合

(2) 北海道立文学館及び北海道立釧路芸術館の常設展示の場合

区分	利用料金の上限額	
	個人	10人以上の団体
1 高等学校の生徒、大学の学生及びこれらに準ずる者	500円	1人に 330円 つき
2 1以外の者(学齢に達しない者、小学校の児童、中学校の生徒及びこれらに準ずる者を除く。)	960円	1人に 800円 つき

2 北海道立文学館の特別展示室又は講堂を利用する場合

区分	利用料金の上限額		
	午前	午後	1日
特別展示室			103,980円
講堂	15,030円	17,350円	26,640円

(4) 北海道立文学館及び北海道立釧路芸術館の特別展示の場合

区分	利用料金の上限額	
	個人	10人以上の団体
1 小学校の児童、中学校の生徒及びこれらに準ずる者	1,430円	1人に 1,240円 つき
2 高等学校の生徒、大学の学生及びこれらに準ずる者	2,360円	1人に 1,750円 つき
3 1及び2以外の者(学齢に達しない者を除く。)	3,580円	1人に 2,780円 つき

令和2年度事業概要

I 文学資料の収集・整理・保存及び閲覧事業

購入資料受入れ総数（図書・雑誌及び特別資料等）	797 点
寄贈資料受入れ総数（同上）	5,557 点
	6,354 点
整理・保存	収蔵資料のコンピュータ入力並びに寄贈目録の作成等
閲覧	利用者 延 1,400 人

II 展覧会事業

(1) 展覧会開催事業

事業名	実施時期 (日数)	観覧者数 (人)	展覧会の概要
常設展 北海道の文学	通年 (272 日間)	2,428	北海道の文学を時系列に従いつつジャンル別に構成し、解説している。ビジュアルな展示スタイルに主眼を置き、直筆原稿・遺品・初版本・書簡・写真などの貴重な資料約 1,350 点を紹介。(◎展示構成を次頁に掲載。)
特別展 『ねないこだれだ』 誕生 50 周年記念 せなけいこ展	6/ 2(火) ～ 7/26(日) (48 日間)	10,220	『ねないこだれだ』や『めがねうさぎ』の作者として知られる絵本作家のせなけいこ(1931-)は、子育てに奔走する中、37歳で絵本作家としてデビュー。以来、おばけや妖怪、うさぎなどをモチーフに、貼り絵の手法を用いて生み出したシンプルながらも独創的な絵本は、世代を越え、多くの親子に読み継がれるロングセラー。本展では、代表作のひとつ『ねないこだれだ』の誕生 50 周年を記念し、絵本デビュー作の「いやだいやだの絵本」4冊シリーズをはじめとする絵本原画や貴重な資料など、約 250 点を出品。これまであまり知られていなかった、絵本作家デビュー前の幻燈や紙芝居の仕事もひもとき、せなけいこの創作の全貌を紹介した。
特別展 作家たちの交差点 —「北の話」が残した時間	8/22(土) ～ 11/15(日) (75 日間)	1,323	「北海道を旅する手帖」として北の大地の魅力を伝え続けた郷土随筆誌「北の話」は平成 9(1997)年に 35 年、通巻 202 冊の歴史を閉じた。道内外の作家、随筆家、詩人、歌人など約 500 人の執筆者たちが紡いできた「北の話」。終刊から 20 余年が過ぎたいま、掲載された作家たちの息遣いが聞こえてきそうなオリジナル原稿などの資料を中心に、北海道の文学に「北の話」が残した軌跡に触れていただいた。
ファミリー文学館 おいしい! 美味い!! 文学	12/12(土) ～ 3/ 7(日) (68 日間)	2,265	“おいしいもの”は大人も子どもも、みんな大好き。もちろん文学者も。だから小説、エッセイや短歌・俳句、こどもたちの好きな絵本にも“おいしい食べ物”はたびたび登場する。いろいろな北海道ゆかりの文学作品から紹介。文学の中の“おいしい”を味わっていただいた。

※ 特別展「太宰治—創作の舞台裏」と特別展「天災地変人禍に抗して—北海道の災害記録と文学—」は、新型コロナウイルス感染症対策による臨時休館等のため中止。

【常設展アーカイブ】

- ・第 1 期展示 [4 月 11 日(土) ～7 月 19 日(日)]
豆本ワールド
本の世界を小さく彩ってきた「豆本」の世界を当館収蔵資料から紹介。
- ・第 2 期展示 [8 月 7 日(金) ～10 月 4 日(日)]
《アイヌ絵巻》と文学
当館所蔵のアイヌに関する文学・絵画資料を中心に紹介。
- ・第 3 期展示 [10 月 20 日(火) ～12 月 20 日(日)]
大本靖 四季の風景

北海道各地を取材した大本靖の季節感豊かな木版画を、文学とともに味わう。

・第4期展示 [1月19日(火)～3月14日(日)]

「書」で味わう文学

掛け軸、色紙、短冊など文学の香りをたたえた書を紹介。

(2) 常設展の展示構成

〈北海道の文学、その歴史〉〔神谷忠孝・平原一良〕

◆20世紀への胎動 久保栄「五稜郭血書全5幕」自筆原稿、北方謙三「林蔵の貌」自筆原稿、高倉新一郎「札幌農学校」 ◆助走期の苦闘 有島武郎・木田金次郎宛書簡、武者小路実篤「武郎さんと僕」自筆原稿、雑誌「白樺」 ◆漂泊と彷徨 国木田独歩「欺かざるの記」複製原稿、幸田露伴「二日物語 此一日」複製原稿、石川啄木「雲は天才である」複製原稿 ◆道産子作家の誕生 武林無想庵「アルバム」自筆原稿、森田たま「きもの博士」自筆原稿、中戸川吉二・久米艶子宛書簡 ◆逆流のさなかで 小林多喜二「故里の顔」複製原稿、久保栄「火山灰地」自筆原稿、本庄陸男「逆流」自筆原稿 ◆モダニズムの台頭 伊藤整「文化的青春伝」自筆原稿、中村武羅夫自筆色紙、岡田三郎「かぼちゃ談義」自筆原稿 ◆戦火の中で 辻村もと子「馬追原野」自筆原稿、石塚喜久三「花の海」自筆原稿、坂本直行自筆カット原画 ◆復興と再生 畔柳二美「こぶしの花の咲くころ」自筆原稿、風巻景次郎「札幌地理学」複製原稿、船山馨遺品 ◆成長期の精華 雑誌「北海道文学」(原田康子「挽歌」掲載)、和田芳恵「五十年ぶりの帰郷」自筆原稿、李恢成自筆色紙、三浦綾子短冊(三浦光世筆) ◆変転する現代 高橋揆一郎「『伸子』覚え書き」自筆原稿、吉村昭「赤い人」自筆原稿、渡辺淳一「リラ冷えの街」自筆原稿

〈北海道の詩〉〔原子修〕

◆「現代の詩」の創造に挑んだ〈風の詩人〉たち 吉田一穂「魚歌」自筆扁額、小熊秀雄画「裸婦」 ◆「現代の詩」を北の大地に根づかせた〈土の詩人〉たち 更科源蔵「河童十二ヶ月」複製原稿、和田徹三「命」自筆原稿、河邨文一郎「オホーツク」自筆原稿 ◆「現代の詩」の新しい可能性を求めて 原子修自筆色紙

〈北海道の短歌〉〔内田弘〕

◆北海道歌壇の動き 小田観螢、並木凡平、酒井廣治、山下秀之助、伊東音次郎 ◆北海道歌人会 その主な活動 ◆歌人達の揮毫 野原水嶺、芥子澤新之介、小田観螢、宮西頼母、川村濤人、樋口賢治 ◆北海道を詠む 石川啄木、太田水穂、若山牧水、土屋文明、与謝野寛、与謝野晶子、斎藤茂吉、佐藤佐太郎、橋本徳寿、宮柊二、太田青丘、齋藤史、清原日出夫

〈北海道の俳句〉〔木村敏男〕

◆北方俳句の夜明け 松窓乙二、河東碧梧桐、牛島勝六、高浜虚子、長谷川零餘子、臼田亜浪、石田雨圃子、青木郭公ほか ◆俳句近代化への潮流 荻原井泉水、泉天郎、長谷部虎杖子、唐笠何蝶、細谷源二、土岐鍊太郎、伊藤凍魚、水野波陣洞ほか ◆花ひらく北の俳句 齋藤玄、寺田京子、比良暮雪ほか ◆俳句の現代 比良暮雪、佐々木丁冬、鮫島交魚子、園田夢蒼花、山岸巨狼ほか

〈アイヌの口承文芸〉〔青柳文吉〕

金田一京助、知里真志保、久保寺逸彦、金成マツ、知里幸恵、萱野茂

〈北海道の川柳〉〔斎藤大雄〕

◆明治～昭和初期 鈴木青柳、北村白眼子、亀井花童子、神尾三休、三輪破魔杖、井上剣花坊、鶴彬、西嶋〇丸、田中五呂八ほか ◆昭和後期～平成7年 西村欣童、高木夢二郎、森田一二、甲野狂水、古田八白子 ◆北海道の川柳社 道央、道南、道東、道北の各結社の活動と結社誌等を紹介

〈北海道の児童文学〉〔柴村紀代〕

◆明治～昭和20年代 伊東音次郎、支部沈黙、坪松一郎ほか ◆昭和30年代 石森延男、神沢利子、安藤美紀夫、渡辺ひろし、玉川雄介ほか ◆昭和40年代以降 加藤多一、後藤竜二、長野京子ほか

〈千島・樺太の文学〉〔木原直彦〕

夏堀正元、吉村昭、李恢成、寒川光太郎ほか

Ⅲ 教育普及事業

注：「事業項目」の無印は道負担事業。※印は財団企画事業。

事業項目	事業名	実施時期(日数)	目標観覧(参加)者数(人)	観覧(参加)者実績数(人)	観覧(参加)率(%)	備考
講演会・セミナー・講話等	ギャラリーツアー 講師：当館学芸員	11/1(日)、11/15(日) 全2回		5		常設展関連事業
〃	対談「いま、『北の話』を語る」 講師：乳井洋一（北海道新聞OB）、金子国彦（北海道新聞OB）	9/5(土)	80	28	35.0%	「北の話展」関連事業
〃	朗読会「『北の話』を聞く」	10/11(日)	80	23	28.8%	〃
小・中・高生短歌コンテスト	小・中・高生を対象に作品を募集し、優秀作品を表彰するとともに、当館ロビーに作品展示	募集 7/1(水)～9/9(水) 展示 11/28(土)～1/11(月・祝)	4,500	7,545	167.7%	
ファミリー文学館	朗読会「聴いて味わう“おいしい！”文学」	12/13(日)、1/24日(日) 2/11(木・祝) 全3回	240	77	32.1%	
わくわくこどもランド	紙芝居、読み聞かせ、工作教室などに親子で参加	9/6、10/4、11/8、 12/20、2/7 全5回	450	58	12.9%	
映像作品鑑賞のついで	「泥だらけの純情」	8/30(日)	60	15	25.0%	
〃	「幸福の黄色いハンカチ」	9/27(日)	60	15	25.0%	
〃	「真白き富士の嶺」	11/22(日)	60	21	35.0%	
〃	「そよかぜ」	2/21(日)	60	14	23.3%	
市町村連携事業「文学館出前講座」	市町村、学校、文化団体等との共催で講演会等を開催	11市町村 14会場	1,200	741	61.8%	
市町村連携事業「ミニ巡回展」	市町村、学校、文化団体等との共催で講演会等を開催	4市町村 4会場	2,000	1,844	92.2%	
文字・活字文化の振興事業	講演会「書物と文体から見る日本文学史」 講師：月岡道晴（國學院北海道短期大学教授、歌人）	10/25(日)	70	15	21.4%	
古典の日記念朗読会	朗読：堀きよ美（石山東大人楽団所属） 演奏：黒田拓、村場踊	11/3(火・祝)	70	23	32.9%	
月例朗読会	朗読：朗読表現 ゆうの会 ほか	10/8、12/10、3/4 全3回	500	66	13.2%	
文化施設連携事業	「カルチャーナイト2020」 常設展「北海道の文学」の動画を作成し、インターネットで公開	7/17(金)	320	オンライン参加		
文学資料の利用	閲覧室での研究、調査、読書等	通年（272日間）	2,400	1,400	58.3%	
文学愛好団体の活動	文学愛好団体が講堂利用（貸館）	通年（272日間）		117		
負担金事業計			12,150	12,007	98.8%	
※ 文学館カレッジ	20世紀北海道の文芸作品Ⅱ、児童文学創作教室Ⅱ、絵本を学ぼう、生涯読書会の4講座	8～3月	450	148	32.9%	
※ ロビーコンサート	「秋の夜のチェロコンサート」	11/7(土)	120	22	18.3%	
※ ぶらり文学散歩	身近な土地と文学の関わりを解説	10/20(火)、11/10(火)	30	14	46.7%	
※ 文学館まつり	朗読とカンテレ演奏、秋のミニ色紙づくり、ミニ古書市など	9/22(火・祝)	300	169	56.3%	
※ ロビー展示	文学への関心等を促すため収蔵品資料等を展示	5/26～7/26、 8/25～11/8、 1/16～2/28、 3/6～3/31 全4回		7,233		
※ 小学生向け事業	「文学館たんけんクイズ」	通年（272日間）	100	20	20.0%	
財団企画事業計			1,000	7,606	760.6%	
			13,150	19,613	149.1%	

Ⅳ 北海道文学に関する調査研究事業

- ① 特別展「『ねないこだれだ』誕生 50 周年記念せなけいこ展」関連資料調査
- ② 特別展「太宰治 創作の舞台裏」展関連資料調査
- ③ 特別展「作家たちの交差点―「北の話」が残した時間」展関連資料調査
- ④ ファミリー文学館「おいしい！美味しい!! 文学」展関連資料調査
- ⑤ 特別展「天災地変人禍に抗して―北海道の災害記録と文学―」展関連資料調査
- ⑥ 特別展の図録作成に要する調査
- ⑦ 次年度の特別展「太宰治 創作の舞台裏」展関連資料調査
- ⑧ 次年度の特別展「天災地変人禍に抗して―北海道の災害と文学―」展関連資料調査
- ⑨ 次年度のファミリー文学館「彫り続けた北の自然―絵本作家・手島圭三郎の 40 年」展関連資料調査
- ⑩ 次年度の特別展「小説挿絵の魅力―文芸作品に伴走して」展関連資料調査
- ⑪ 次年度の特別展「よみがえれ！とこしえの加清純子」再び」展関連資料調査

Ⅴ 文学愛好団体等の活動に対する支援事業

次の団体の事業に対して、後援並びに共催により支援した。

- ① 中川町教育委員会
斎藤茂吉記念第 27 回中川町短歌フェスティバル
(令和 2 年 8 月 1 日～12 月 18 日 中川町)
- ② 札幌大学熊谷ユリヤ研究室
X'mas バイリンガル朗読とハーブ
(令和 2 年 12 月 19 日 札幌市男女共同参画センター エルプラザホール)
- ③ 札幌大学熊谷ユリヤ研究室
(令和 3 年 3 月 9 日 札幌市時計台ホール)

Ⅵ 啓発広報事業

- ① 事業案内、各展覧会ポスター・ちらし及び講演会・セミナーちらし等を制作・発行し、道内外の文学館、道内の博物館や図書館、札幌市内の地区センター、区民センター、カルチャーセンター、主要ホテル、観光案内所等に配布した。又、地下鉄各駅構内にポスターの掲示を行った。更に、展覧会の開催を PR するため、新聞紙上で有料広告のほか TV スポット CM を行った。
- ② 「北海道文学館報」第 121 号（6 月 26 日付）、第 122 号（10 月 21 日付）、第 123 号（12 月 25 日付）、第 124 号（3 月 19 日付）を発行した。

Ⅶ 刊行物の刊行事業

- ① 特別展「作家たちの交差点―「北の話」が残した時間」パンフレットの刊行

Ⅷ その他の付帯事業

- ① 博物館実習生の受入
博物館実習生―10 名（受入期間 5 月～3 月。実習期間 2 週間）

■ 統計・資料 ■

I 令和2年度 展覧会別観覧状況

単位：名

区 分	常設展		特 別 展				計	
	北海道の文学	せなけいこ展	太宰治展	作家たちの交差点展	ファミリー文学館	天災地変人禍に抗して展		
開催日数	272	48	中止	75	68	中止		
有 料	個 人	一般	374	6,341		136		6,477
		高大生	79	323		5		328
		小中生		632				632
		小 計	453	7,296	0	141	0	7,437
	団 体	一般	211	494		181		675
		高大生	34	25		22		47
		小中生		35				35
小 計	245	554	0	203	0	757		
免除・招待	1,730	2,370		979	1,110		4,459	
観覧者総数	2,428	10,220	0	1,323	1,110	0	12,653	

II 令和2年度 事業別利用状況

単位：名

区分		月別												計		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
負 担 金 事 業	展 覧 会 事 業	常設展	54	35	135	226	293	404	409	375	116	93	146	142	2,428	
		せなけいこ展			4,691	5,529										10,220
		太宰治展	中止													0
		作家たちの交差点展					123	453	476	271						1,323
		ファミリー文学館									195	381	416	118		1,110
		天災地変人禍に抗して展	中止													0
	小 計	54	35	4,826	5,755	416	857	885	646	311	474	562	260		15,081	
	教 育 普 及 事 業	講演会・セミナー・講話等						28	23	5						56
		夏休み文学道場	中止													0
		小中高生短歌コンテスト						7,545								7,545
		ファミリー文学館									25	25	27			77
		映像作品鑑賞のつどい					15	15		21			14			65
		地域連携事業 「文学館出前講座」				51	37	114	349	150	40					741
		地域連携事業 「ミニ巡回展」				53	1,475			246				70		1,844
		文字活字文化振興事業							15							15
		古典の日記念朗読会								23						23
		月例朗読会							22		20			24		66
		わくわく子どもランド						10	21	13	13		1			58
		文化施設連携事業 カルチャーナイト2020														0
		文学資料の利用 (資料閲覧・共同研究)	79	36	122	161	118	157	179	104	72	115	142	115		1,400
小 計		79	36	122	265	1,645	7,869	609	562	170	140	184	209		11,890	
文学愛好団体の文学活動					39	13	15			50				117		
計	79	36	122	265	1,684	7,882	624	562	170	190	184	209		12,007		
負担金事業計	133	71	4,948	6,020	2,100	8,739	1,509	1,208	481	664	746	469		27,088		
自 主 企 画 事 業	教 育 普 及 事 業	文学館カレッジ				4	26	31		31	5	18	18	15	148	
		ロビーコンサート								22					22	
		中島公園ふんがく緑日	中止												0	
		ぶらり文学散歩							7	7					14	
		文学館まつり(9/22)						169							169	
		ロビー展示		35	2,474	2,958	87	209	582	277		179	373	59		7,233
		文学館探検クイズ	4		4	2	1	3	3					3		20
		文化公演の活動 (コンサート、朗読会)														0
		自主企画事業計	4	35	2,478	2,960	92	407	623	337	5	197	391	77		7,606
		ボランティア活動状況							7	1	7		2			17
その他(喫茶コーナー)	27	11	90	88	57	81	127	75	52	43	47	78		776		
合 計	164	117	7,516	9,068	2,249	9,227	2,266	1,621	545	904	1,186	624		35,487		

※ 4月14日～5月24日 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館

Ⅲ 令和2年度 資料収集状況

収集状況

単位：点

区 分	購 入	寄 贈	合 計
図 書 資 料	467	827	1,294
雑 誌 資 料	314	4,479	4,793
視 聴 覚 ・ 電 磁 資 料	0	0	0
特 別 資 料	16	251	267
計	797	5,557	6,354

〈主な収集特別資料〉

伊藤整自筆原稿「二葉亭四迷と近代文学の出発」(400字詰 21枚)	1点購入
船山馨自筆原稿「近江屋異聞」(400字詰 48枚)	1点購入
檀一雄自筆色紙「宇登呂なるトドロが濱の尾白鷺…」	1点購入
雨宮庸蔵宛子母澤寛書簡 (1935年)	1点購入

公益財団法人北海道文学館への寄贈

写真「砂澤ビッキの本棚」(撮影：甲斐敬章) 1点受贈

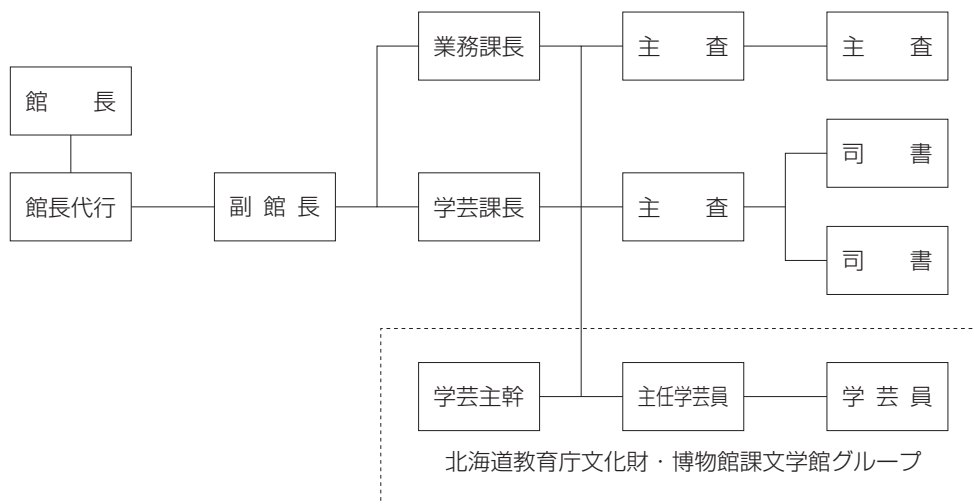
大本靖版画作品、蔵書票など 68点受贈

映画「阿寒に果つ」台本など 4点受贈

ほか

■ 組織及び職員 ■

I 組織機構図



II 職員

(令和3年3月31日現在)

職名	氏名	職名	氏名		
館長	工藤正廣	学芸課 司書	三井沙紀		
館長代行 (財団副理事長)	武田信吾	学芸課 司書	佐々木啓子		
副館長 (財団専務理事)	野村六三	北海道教育庁文化財・博物館課 文学館グループ			
業務課 課長 (財団常務理事)	高塚信之				
業務課 主査	丹羽則孝			学芸主幹	光岡幸治
業務課 主査	佐々木孝夫			主任学芸員	吉成香織
学芸課 課長	苫名直子			学芸員	寺地亜衣
学芸課 主査	丹伊田範子			学芸員	竹中七帆

■ その他 ■

I 文学館の歩み

年 次	事 項	年 次	事 項
昭和42	北海道文学館設立総会、館報1号発行、有島武郎文学展		
43	文学に見る北方風物展	62	「核」30周年記念展、和田謹吾理事長就任『北海道文学百景』『北海道文学絵はがき』発行、北海道文学館歩み展、北海道文学館20周年記念祝賀会および記念展、俳句誌「氷原帯」創刊40周年記念展
44	北海道旅の文学展	63	北海道歌人会創立35周年記念展、北海道新聞文化賞展、『北海道文学読本』発行、没後30年久保栄文学展、近代日本の文豪——森鷗外展、財団法人北海道文学館設立
45	伊藤整・亀井勝一郎文学展	平成元	胆振文学展・目で見える風土と文学、俳句誌「葦牙」創刊700号記念展、北海道女流作家第一号森田たま展、北海道川柳展、作家生活25年記念三浦綾子展(札幌、旭川)
46	北海道詩歌展	2	児童文学「新十津川物語」展(札幌、新十津川)、移動展・石川啄木と野口雨情展、文化情報誌「ニュースきょうどう・カムイミンタラ」展、歌誌「新壘」創刊60周年記念展、北のロマンを奏でる——渡辺淳一文学展、市町村文芸誌展——道東・道北編
47	目で見える札幌文学散歩	3	市町村文学誌展——道央・道南編、移動展・石森延男と室蘭の児童文学展、文学展・北海道花の歳時記、来道60年記念斎藤茂吉展、文芸誌「赤煉瓦」とその周辺展
48	藤村における旅資料展、久保栄文学展、札幌の文学・百年展	4	設立25周年記念・有島武郎と木田金次郎展、北電文化誌「フロンティア」著名作家原稿展、文学展・北海道花の歳時記(室蘭)、北の文学風物誌展(冬の巻)、らいらく文学賞展
49	文学に見る札幌風景展、北海道女流文学展、小田観瑩・人と作品展	5	俳句誌「アカシヤ」500号記念展、札幌文学散歩展、没後25年・道立文学館着工記念伊藤整文学展、北海道詩人協会40周年記念展
50	札幌の作家展(戦前の巻)、戦後30年・北海道文学展、札幌の作家展(戦後の巻)、川柳に見る戦後の札幌展	6	文学・北の歳時記展、文学展・札幌線沿線の旅、北の山と文学展
51	碑に見る北の文学展、林不忘・長谷川四郎兄弟展、石狩川流域文学展、歌人・山下秀之助展		〔北海道立文学館〕
52	札幌の文学サークル展、文学展・北の海、札幌・戦後演劇展	7	北海道立文学館管理運営業務開始(財団法人北海道文学館受託)
53	文学展・ふるさとの窓、北海道児童文学展、さっぽろの俳句展		北海道立文学館開館記念特別展・北の夜明け、所蔵品展・私の愛した抒情詩人たち(澤田誠一理事長就任)
54	札幌市資料館に館看板掲示、現代北海道短歌展、風土のなかの文学碑展、『北海道文学地図』発行	8	特別企画展・北海道の俳句、特別企画展・久保栄と北海道、所蔵品展・船山馨の文学世界
55	現代北海道俳句展、北海道岬文学展、児童文学と絵日記展——石森延男・その周辺——		
56	雑誌「北方文学」展、石森延男児童文学展、館所蔵文芸雑誌閲覧開始、北海道岬・文学展、高橋留治氏から3000余冊の詩書等寄贈、北海道文学全集展		
57	木島健作文学展、船山馨文学展、北海道・湖文学展、鮫島交魚子・加藤愛夫文学展		
58	寺田京子・宮田益子・森みつ三人展、文学展・大地と人間、にんげん坂本直行展——その絵と文学——		
59	北海道児童文学全集展、北海道演劇資料展		
60	北海道文学展示室が常設展に移行、北海道俳句展、北原白秋展、文学に見る北方風物展、『北海道文学大事典』発行、地域文化功労者賞受賞		
61	日本の文学館風景展、歌誌「原始林」40周年記念展、「石川啄木と野口雨情」文学風物展、石森延男と札幌の児童文学展、詩誌		

年次	事項	年次	事項
9	特別企画展・森田たまと素木しづ、特別企画展・青春と文学、所蔵品展・書簡に探る作家の素顔		次郎・里見弴と中戸川吉二～、企画展・写・文交響～写真家・綿引幸造の世界から～、企画展・〈デルス・ウザーラ〉絵物語展、企画展・書房の余滴～中山周三旧蔵資料から～
10	特別企画展・北海道の短歌、特別企画展・有島武郎とヨーロッパ、企画展・吉田一穂とその時代	19	特別企画展・太宰治の青春～津島修治であったころ～、特別企画展・目で識る川柳250年展・併設：北海道川柳の流れ、企画展・父・船山馨のDNA～船山滋生の彫刻と挿画～、企画展・遊んで学んだ、あの時代。新発見！100年前の児童雑誌、企画展・探求者の魂～山田昭夫の書斎から～
11	特別企画展・夏目漱石と芥川龍之介、特別企画展・〈本〉はどこに向かうのか、所蔵品展・本庄陸男と『石狩川』	20	特別企画展・詩の黄金の庭 吉増剛造展、企画展・馬たちがいた 加藤多一と北の風景、企画展・鳥のことば・人のことば 加藤幸子の見つめる世界、企画展・文学の鬼を志望すー八木義徳
12	特別企画展・挿絵と装幀の小宇宙、特別企画展・「北緯五十度」の詩人たち、企画展・花咲く北の川柳展	21	常設展プレミアム・特集「フロンティア」—60～70年代の北海道、特別企画展・没後10年…三浦綾子／いのちへの愛、企画展・語り、継ぐ。—アイヌ口承文芸の世界、企画展・サハリンを読む—遙か[樺太]の記憶企画展・藤倉英幸と旅のイメージ
13	特別企画展・夢の世界のおくりもの～アンデルセン童話・絵本原画展～、特別企画展・100年目の小熊秀雄～20世紀詩のヴァンギャルド～、企画展・映画ポスターに見る北海道の文学	22	北海道立文学館指定管理者(財団法人北海道文学館指定) 常設展プレミアム・日本人の遺書、常設展プレミアム、《川柳王国》北海道の軌跡、特別展、蘭繁之の手仕事～“美”にこだわった津軽の奇才、特別展・北斎漫画展～伝承版木が伝える江戸の出版文化、ファミリー文学館・開いてビックリ！しかけ絵本展、特別展・吉村昭と北海道～歴史を旅する作家のまなざし
14	特別企画展・寺山修司展～テラヤマ・ワールド—きらめく闇の宇宙～、特別企画展・大自然に抱擁されて～知里幸恵『アイヌ神謡集』の世界へ～、企画展・中沢茂“ひとりの賑やかさ”～根室と霧と芸術家たち～(神谷忠孝理事長就任)	23	特別展・追悼・後藤竜二展～子どもたちへの応援歌～高田三郎・小泉るみ子兄妹展、特別展・日は過ぎ去って僕のみは～福永武彦、魂の旅～、ファミリー文学館・絵本の原画を運ぼう！～現代版北前船の旅 あべ弘士「かちかち山」、特別展・赤色エレジーから小梅の初恋～林静一展、常設展プレミアム・森田たまの交友録—書簡に見る文学者たちの筆跡、特別展・李恢成の文学、(公益財団法人北海道文学館に名称変更)
15	特別企画展・生誕100年記念 林芙美子展 特別企画展・函館—青森海峡浪漫～(北の20世紀)を紡いだ作家たち～、企画展・詩人百田宗治の戦後～北海道に残したもの～	24	常設展プレミアム・書物の美～明治・大正期の詩集～、特別展・いせひでこ・絵本の
16	特別企画展・写真家掛川源一郎の20世紀 特別企画展・更科源蔵生誕100年 北の原野の物語、企画展・アイヌ語地名を歩く—山田秀三の地名研究から—、企画展・仙花紙からの出発～雑誌に見る「戦後」の姿、企画展・北の風土の批評精神発生と展開～風巻景次郎から小笠原克へ～		
17	企画展・現代少年少女詩・童謡詩展、特別企画展・神沢利子の世界～北を想う・北を描く～、特別企画展・原田康子の北海道～小説「挽歌」から50年～、企画展・サハリン追跡～残留朝鮮人の軌跡、ファミリー文学館・春を待つ子どもたち～いわさきちひろ複製画展～		
18	北海道立文学館指定管理者制度開始(財団法人北海道文学館指定) 特別企画展・石川啄木～貧苦と挫折を超えて～、特別企画展・池澤夏樹のトポス～旅する作家と世界の出会い～、企画展・人生を奏でる二組のデュオ～有島武郎と木田金		

年次	事項	年次	事項
	世界一私の木、心の木、ファミリー文学館 幻想文学館 文豪たちのこわ〜い話、特別 展・新美南吉誕生100年 ごんぎつねの世界、特別展・戦後北海道の演劇、特別展・ 高橋揆一郎の文学		特別展・没後50年 子母澤寛 無頼三代 蝦夷の夢、特別展・戦没画学生慰霊美術館 「無言館」展、特別展・極の誘ひ 詩人吉 田一穂展 — あゝ麗はしい距離、ファミ リ－文学館「大本靖の版画でたどる北海道 四季の風景」、特別展・北海道の俳句〜ど こから来て、どこへ行くのか〜 (平原一良理事長就任)
25	常設展プレミアム・木版画家・佐藤国男に よる宮沢賢治ワールド、特別展・紙芝居の 今昔、ファミリー文学館 絵本・カムイの 物語、特別展・挿絵が僕らにくれたもの —ジブリが読み解く「通俗文化の源流」 —、特別展・ほっかいどうの短歌100 首、特別展・荒巻義雄の世界—都市型宇 宙船ニュー・ユートピア・シティにむかって	令和元	特別展・よみがえれ!とこしえの加清純 子〜『阿寒に果つ』ヒロインの未完の青 春〜、特別展・歌川広重 ふたつの東海道 五拾三次〜保永堂版×丸清版〜、特別展・ ノンフィクション作家・保阪正康の仕事 —「昭和史」との対話、ファミリー文学 館「人形劇からとび出した人形たち」、特 別展・砂澤ビッキの詩と本棚
26	北海道立文学館指定管理者(公益財団法人 北海道文学館指定) 「氷点」50年 三浦綾子フォトメモリアル —後山一朗が撮り続けた約束の刻、特別 展・FROM HAND TO HAND 手から手 へ展、特別展・ムーミンの世界展〜ヤンソ ンさんからの贈り物〜、ファミリー文学館 「うま」とあそぼう!!、特別展・小檜山博の 文学—野性よ退化する現代を撃て— (工藤正廣理事長就任)	2	特別展・『ねないこだれだ』誕生50周年記 念 せなけいこ展、特別展・作家たちの交 差点—「北の話」が残した時間、ファミ リ－文学館「おいしい! 美味しい!! 文学」
27	特別展・没後1年・渡辺淳一の世界— 『白夜』の青春 リラ冷えを往く、特別 展・挿絵の美・大衆文化の黄金時代—大 正イマジユリイの世界—、特別展・没後 50年 文豪・谷崎潤一郎—愛と美を求 めて、ファミリー文学館 ネコ!ねこ! 猫!!、特別展・「さとぼろ」発見 大正 昭和・札幌 芸術雑誌にかけた夢		
28	特別展・〈青春の記憶 夢みる力〉佐藤泰 志の場所(トボス)、特別展・ミッフィーの たのしいお花畑〜ディック・ブルーナが描 くお花と絵本の世界展、特別展・2016年 の宮沢賢治—科学と祈りのこころ、ファミ リ－文学館・「ワン!ニャン!どっちも 大好き」、特別展・「手仕事の日本」と民藝 の思想		
29	特別展・ふみくらの奥をのぞけば—文学 館・珠玉の300選、特別展・「北方文芸」と 道内文学同人誌の光芒、特別展・《サハリン 島》2017—アントン・チェーホフの遺産、 ファミリー文学館「絵本の動物園へようこ そ」、特別展・有島武郎と未完の『星座』		
30	北海道立文学館指定管理者(公益財団法人 北海道文学館指定)		

II 運営日誌

令和2年

- 4月11日(土) 常設展アーカイブ第1期「豆本ワールド」(～7月19日)
- 5月26日(火) 第1回ロビー展示「せなけいこのことば」(～7月26日)
- 6月2日(火) 特別展『『ねないこだれだ』誕生50周年記念せなけいこ展』オープン(～7月26日)
- 6月9日(火) ミニ巡回展「ワン!ニャン!どっちも大好き」(～7月12日、東神楽町)
- 7月1日(水) 第15回北海道小・中・高校生短歌コンテスト応募受付開始(～9月9日)
- 7月6日(月) ミニ巡回展「怪奇幻想文学館文豪たちのこわーい話」(～8月28日、津別町)
- 7月17日(金) 文学館出前講座「絵本パフォーマンス」(釧路市、講師：岸田典大)
- 7月17日(金) カルチャーナイト2020(オンライン参加)
- 8月7日(金) 常設展アーカイブ第2期「《アイヌ絵巻》と文学」(～10月4日)
- 8月12日(水) 文学館出前講座「人形劇と腹話術」(幌延町、講師：人形劇団ブランコ)
- 8月22日(土) 特別展「作家たちの交差点—「北の話」が残した時間」オープン(～11月15日)
- 8月22日(土) 文学館カレッジ(児童文学創作教室Ⅱ、講師：三浦幸司)
- 8月25日(火) 第2回ロビー展示「中島公園の文学」(～11月8日)
- 8月29日(土) 文学館出前講座「古典文学「うつほ物語」」(旭川市、講師：本宮洋幸)
- 8月30日(日) 第1回映像作品鑑賞のつどい「泥だらけの純情」
- 9月2日(水) 文学館出前講座「人形劇」(札幌市、講師：おたのしみ劇場ガウチョス)
- 9月5日(土) 対談「いま、『北の話』を語る」(講師：乳井洋一、金子国彦)
- 9月6日(日) わくわくこどもランド(絵本の読み聞かせ、出演：当館職員)
- 9月19日(土) 文学館カレッジ(生涯読書会 工藤正廣訳ロシア小説を読んでもみよう、講師：工藤正廣)
- 9月19日(土) 文学館カレッジ(絵本を学ぼう—特別編、講師：杉浦篤子)
- 9月22日(火) 文学館まつり(常設展の無料開放、朗読とカンテレ演奏、一日限りの資料公開、ミニ古書バザール、秋のミニ色紙作り)
- 9月26日(土) 文学館カレッジ(児童文学創作教室Ⅱ、講師：有島希音)
- 9月27日(日) 第2回映像作品鑑賞のつどい「幸福の黄色いハンカチ」
- 10月1日(木) 文学館出前講座「昭和歌謡を読む」(江別市、講師：中澤千磨夫)
- 10月3日(土) 文学館出前講座「短歌創作ワークショップ」(清水町、講師：田中綾)
- 10月4日(日) わくわくこどもランド(絵本の読み聞かせ、出演：札幌静修高等学校読み聞かせボランティア)
- 10月4日(日) 文学館出前講座「朗読とカンテレ演奏」(帯広市、講師：村井裕子、あらひろこ)
- 10月6日(火) 文学館出前講座「絵本パフォーマンス」(札幌市、講師：岸田典大)
- 10月8日(木) 月例朗読会「北の響～名作を声にのせて～」(朗読：朗読表現 ゆうの会)
- 10月11日(日) 朗読会「『北の話』を聞く」(朗読：安藤千鶴子)
- 10月11日(日) 文学館出前講座「人形劇と腹話術」(八雲町、講師：人形劇団ブランコ)
- 10月15日(木) 文学館出前講座「やさしい俳句入門」(美唄市、講師：瀬戸優理子)
- 10月16日(金) 文学館出前講座「人形劇と腹話術」(岩見沢市、講師：人形劇団ブランコ)
- 10月17日(土) 文学館カレッジ(生涯読書会 工藤正廣訳ロシア小説を読んでもみよう、講師：工藤正廣)
- 10月17日(土) 文学館カレッジ(絵本を学ぼう—特別編、講師：久保田知恵子)
- 10月20日(火) 常設展アーカイブ第3期「大本靖 四季の風景」(～12月20日)
- 10月20日(火) 第1回ぶらり文学散歩「中島公園境界を歩く」
- 10月24日(土) 文学館カレッジ(再読：20世紀北海道の文芸作品Ⅱア辻村とも子、講師：平原一良)
- 10月24日(土) 文学館カレッジ(児童文学創作教室Ⅱ、講師：有島希音)
- 10月25日(日) 文字・活字文化の日関連事業講演会(「書物と文体から見る日本文学史」講師：月岡道晴)
- 10月26日(月) ミニ巡回展「ベストセラー作家渡辺淳一が描いた北海道」(～11月10日、木古内町)
- 11月1日(日) 常設展アーカイブ・ギャラリー・ツアー
- 11月3日(火) 古典の日記念朗読会(出演：堀きよ美、黒田拓、村場踊)
- 11月6日(金) 文学館出前講座「絵本パフォーマンス」(根室市、講師：岸田典大)

- 11月6日(金) 文学館出前講座「人形劇と腹話術」(平取町、講師：人形劇団ブランコ)
- 11月7日(土) ロビーコンサート「秋の夜のチェロのコンサート」(出演：西村新一)
- 11月8日(日) わくわくこどもランド(絵本の読み聞かせ、出演：出光圭子)
- 11月10日(火) 第2回ぶらり文学散歩「真駒内・宮の森中心に」
- 11月15日(日) 常設展アーカイブ・ギャラリー・ツアー
- 11月21日(土) 文学館カレッジ(生涯読書会 工藤正廣訳ロシア小説を読んでもみよう、講師：工藤正廣)
- 11月21日(土) 文学館カレッジ(絵本を学ぼう―特別編、講師：柴村紀代)
- 11月22日(日) 第3回映像作品鑑賞のつどい「真白き富士の嶺」
- 11月28日(土) 第15回北海道小・中・高生短歌コンテスト作品展示(～1月11日)
- 11月28日(土) 文学館カレッジ(再読：20世紀北海道の文芸作品Ⅱア辻村とも子、講師：平原一良)
- 11月28日(土) 文学館カレッジ(児童文学創作教室Ⅱ、講師：升井純子)
- 12月10日(木) 月例朗読会「北の響～名作を声にのせて～」(朗読：朗読を楽しむ会)
- 12月11日(金) 文学館出前講座「絵本パフォーマンス」(札幌市、講師：岸田典大)
- 12月12日(土) ファミリー文学館「おいしい! 美味しい!! 文学」(～3月7日)
- 12月13日(日) 朗読会「聴いて味わう“おいしい!”文学」(朗読：安藤千鶴子)
- 12月20日(日) わくわくこどもランド(絵本の読み聞かせ、出演：読み聞かせボランティア「トムテ」)
- 12月26日(土) 文学館カレッジ(児童文学創作教室Ⅱ、講師：升井純子)

令和3年

- 1月16日(土) 第3回ロビー展示「北海道ゆかりの受賞者」(～2月28日)
- 1月16日(土) 文学館カレッジ(生涯読書会 工藤正廣訳ロシア小説を読んでもみよう、講師：工藤正廣)
- 1月19日(火) 常設展アーカイブ第4期「『書』で味わう文学」(～3月14日)
- 1月23日(土) 文学館カレッジ(再読：20世紀北海道の文芸作品Ⅱイ畔柳二美、講師：平原一良)
- 1月23日(土) 文学館カレッジ(児童文学創作教室Ⅱ、講師：三浦幸司)
- 1月24日(日) 朗読会「聴いて味わう“おいしい!”文学」(朗読：澤井貴良子)
- 2月7日(日) わくわくこどもランド(絵本の読み聞かせ、出演：読み聞かせボランティア)
- 2月11日(木) 朗読会「聴いて味わう“おいしい!”文学」(朗読：河原多恵子)
- 2月20日(土) 文学館カレッジ(生涯読書会 工藤正廣訳ロシア小説を読んでもみよう、講師：工藤正廣)
- 2月21日(日) 第4回映像作品鑑賞のつどい「そよかぜ」
- 2月27日(土) 文学館カレッジ(再読：20世紀北海道の文芸作品Ⅱイ畔柳二美、講師：平原一良)
- 2月27日(土) 文学館カレッジ(児童文学創作教室Ⅱ、講師：三浦幸司)
- 3月4日(木) 月例朗読会「北の響～名作を声にのせて～」(朗読：声の贈り物～月夜見の会)
- 3月6日(土) 第4回ロビー展示「北海道の災害と文学」(～3月31日)
- 3月20日(土) 文学館カレッジ(生涯読書会 工藤正廣訳ロシア小説を読んでもみよう、講師：工藤正廣)
- 3月27日(土) 文学館カレッジ(児童文学創作教室Ⅱ、講師：柴村紀代、千葉朋代)

Ⅲ 公益財団法人北海道文学館役員等名簿

(令和3年3月31日現在)

顧問	池澤 夏樹 李 恢成	加藤 幸子 工藤 正廣	木原 直彦	小檜山 博	神谷 忠孝	荒卷 義雄 (8名)
参与	加藤 多一 永井 浩 出村 文理 安高 誠吾	木村真佐幸 原子 修 野坂 幸弘	小杉 捷七 村田 俊秋 内田 弘	佐々木 譲 吉田 秋陽 岡崎 守	高島 二郎 辻脇 系一 本田 優子	藤堂志津子 谷 咲子 酒向 憲司 (19名)

役職員

理事長 1	平 原 一 良	監 事 1	中 村 孝 一 生	評 議 員 1	青 柳 文 吉
副理事長 2	柴 村 紀 代	// 2	森 一 生	// 2	阿知良 光 治
// 3	谷 口 孝 男			// 3	石 本 裕 之
// 4	武 田 信 吾			// 4	飯 塚 優 子
専務理事 5	野 村 信 三			// 5	植 松 美 由 紀
常務理事 6	高 塚 信 三			// 6	岡 美 紗 緒
理 事 7	浅 川 泰 彦			// 7	岸 美 千 代
// 8	五十嵐 秀 彦			// 8	熊 谷 ユリヤ
// 9	國 松 明 日 香			// 9	佐 藤 芳 行
// 10	澤 田 展 人			// 10	柴 田 耕 平
// 11	瀬 戸 正 昭			// 11	田 口 英 一
// 12	高 橋 秀 明 夫			// 12	田 中 綾
// 13	立 花 峰 夫			// 13	田 村 英 一
// 14	中 澤 千 磨 夫			// 14	田 湯 文 恵
// 15	中 館 寛 隆 子			// 15	寺 村 三 春
// 16	成 田 康 美 夫			// 16	中 本 征 子
// 17	前 川 幸 司 彦			// 17	橋 本 尚 昭
// 18	三 浦 明 彦			// 18	日 浅 野 温 美
// 19	若 宮 由 美			// 19	盛 野 温 美
// 20	和 田 由 美			// 20	平 野 温 美
// 21				// 21	横 田 由 紀 子

収集資料選定委員会

副理事長	柴 村 紀 代	代 理 吉 隆 司
参 与	出 村 文 文	
評 議 員	青 柳 文 文	
評 議 員	中 館 寛 隆 子	
理 事	三 浦 幸 司	

企画検討委員会

理 事 長	平 原 一 良
副 理 事 長	柴 村 紀 代
副 理 事 長	谷 口 孝 男
副 理 事 長	武 田 信 吾
評 議 員	飯 塚 優 子
理 事	五十嵐 秀 彦
理 事	瀬 戸 正 昭
理 事	高 橋 秀 明 夫
理 事	中 澤 千 磨 夫
理 事	野 村 六 三

令和2年度年報（令和4年2月発行）

HOKKAIDO MUSEUM OF LITERATURE

北海道立文学館

〈指定管理者〉公益財団法人 北海道文学館

〒064-0931 札幌市中央区中島公園1番4号
TEL(011)511-7655 FAX(011)511-3266